

NEWS LETTER

2023.3.31
第5号編集発行：一般社団法人 福岡県言語聴覚士会 失語症サポート委員会
県士会事務局：麻生リハビリテーション大学校 灘吉享子 TEL 080-1776-5108

皆さん、お元気ですか？



事業5年目の2022(令和4)年度も、新型コロナウイルスの影響は続きました。夏に第7波、年末年始に第8波の感染急拡大があり、マスクや消毒などの感染対策、ワクチン接種、外出・外食を控えるなど、緊張の日々が続きました。ご自身だけでなく、ご家族や同僚などが身近でかかったりと、大変なご経験をされた方もおられたことと思います。

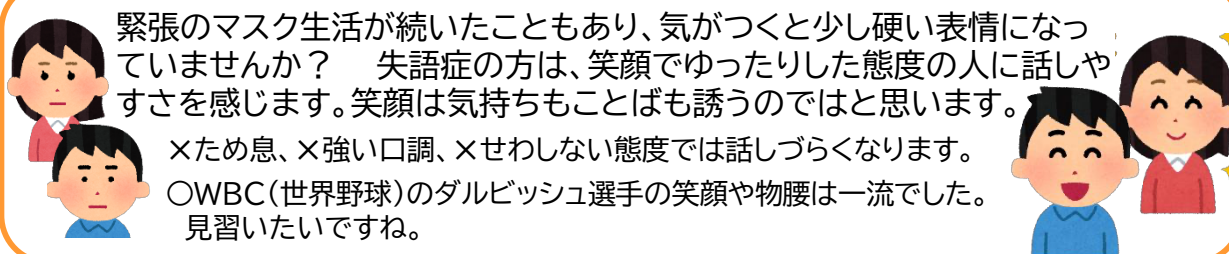
そうしたなか、失語症支援者養成研修（必修コース第4期）は、前年度に続き、ハイブリッド形式（オンラインと対面2日ずつ）の集中講義が7月からスタートしました。9名の方が受講し、現在は友の会やサロンでの実習に参加して下さっています。

皆さんの熱心な研修参加を頂き、登録支援者も少しずつ増えています。ただ実際の派遣はまだ数件、これからという状況です（p2、p5 西日本新聞記事参照）。

2022年度は「派遣につながる研修と体制」を進めるために、①「支援場面を想定した模擬実習（p2）」、②「スタッフが同行・助言するOJT派遣（p3）」を始めました。これを通して、事業体制や支援の課題に気づき、スキルを高め、「利用者にも支援者にも安心な派遣」を目指したいと思います。詳しくはp2～3をご覧ください。

新型コロナは「5月から5類移行」となりますが、引き続き感染対策や体調管理に留意し、失語症の方との接点を大切に、研修にも参加して、「支援の日」に備えて頂ければと思います。

会話支援のワンポイントアドバイス 5 「笑顔で、ゆったりと」



緊張のマスク生活が続いたこともあり、気がつくとしど硬い表情になっていませんか？ 失語症の方は、笑顔でゆったりした態度の人に話しやすいと感じます。笑顔は気持ちもことばも誘うのではと思います。

×ため息、×強い口調、×せわしない態度では話づらくなります。

OWBC(世界野球)のダルビッシュ選手の笑顔や物腰は一流でした。見習いたいですね。

このニュースレターは、より良い支援のため、支援に関わる人がつながることを願って発行しています。 難しかった経験、良かったこと、工夫を共有しましょう。スタッフにも声をかけて下さい。

失語症サポート委員会一同

P1:ご挨拶 会話支援のワンポイントアドバイス

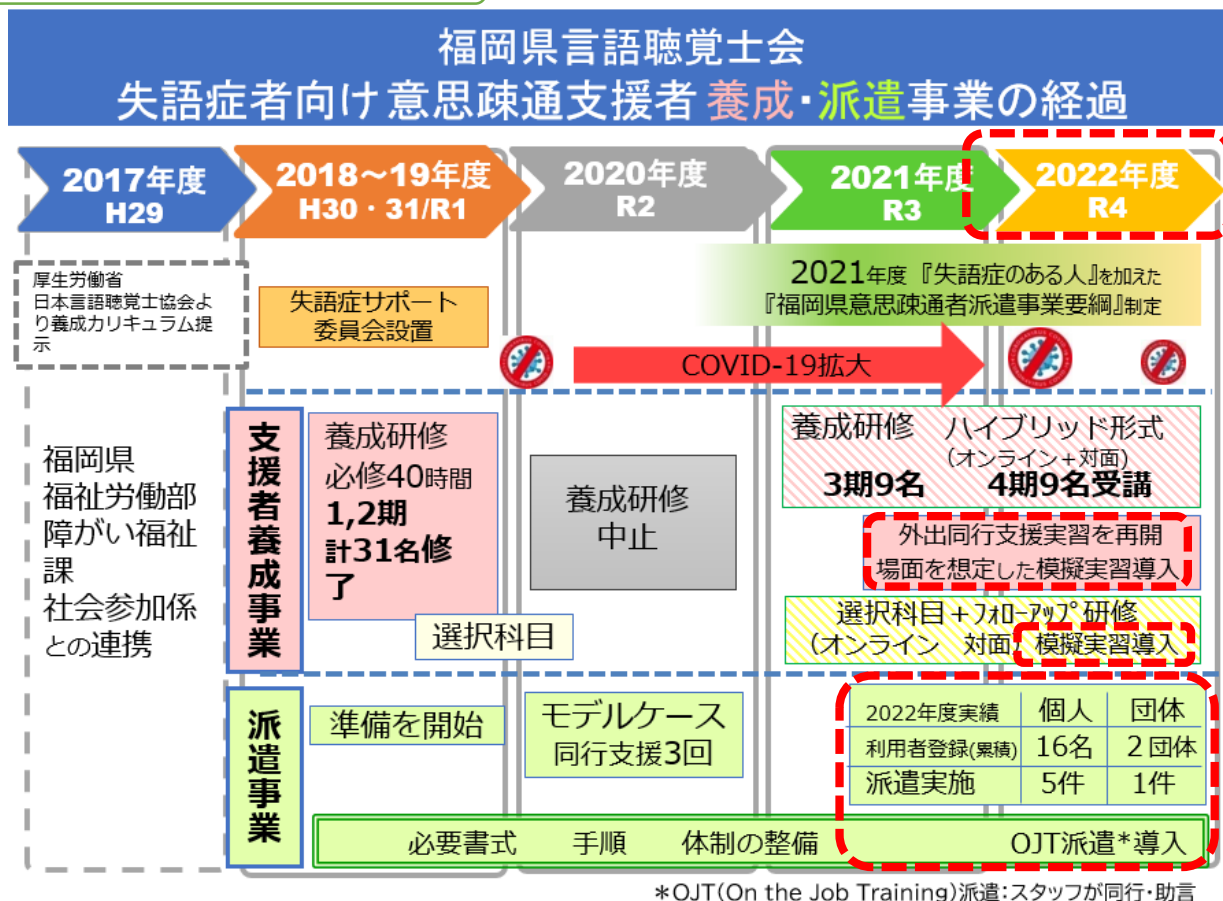
P2:事業の経過、2022年度のポイント①

P3:ポイント② 利用者・支援者の声

P4:2022年度 失語症支援・交流の場 状況報告

P5:西日本新聞 2022年12月16日朝刊「失語症」

P6:失語症の日 福岡プレイベント案内(4/16午前)

2022年度
R4

ポイント①

養成事業 外出同行支援実習の再開
支援場面を想定した模擬実習を導入しました

例) 買い物同行支援

「支援者＝研修生、利用者(失語症)役＝スタッフST」のペアを作ります。
書類を読み込み、準備して、出会って、出発！
安全に移動し、会話を支援し、利用者の目的を達成して戻りました。
終了後は、全員で振り返り、難しかったことを共有しました。
派遣の手順、当日の流れ、支援のポイントを理解できたのではと思います。

例)依頼:家電店でUSBメモリを買いたい

支援者役
(研修生)利用者役
(スタッフST)支援のイメージが湧きました
具体的な手順が理解できました手順・体制・書式の
課題が見つかりました
検討します

要点筆記

福岡県言語聴覚士会
失語症サポート委員会

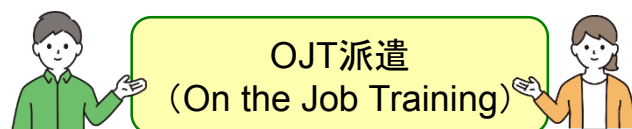
※登録支援者のフォローアップ研修にも同様の模擬実習を導入しています

2022年度
R4

ポイント② 派遣事業
スタッフが同行・助言する「OJT派遣」の導入

個人 5件				
依頼	病院受診 OJT	携帯電話の修理 (2件) OJT	身体障害者手帳の 申請手続き OJT	携帯電話の 機種変更

団体 1件	
依頼	友の会バスハイク同行 (2名)



スタッフが同行・助言する
→支援技術の向上と安心へ

派遣利用者、支援者、OJT同行スタッフの感想の例 (抜粋)

→次につなげます

1) 初対面で、どの方が利用者さんなのか迷いました。

→初対面の場合、利用者の方には「目印になる札(黄色)」を送ることを検討中です。

2) 車椅子介助の際、想定よりも高い段差があり、越えるのに難渋しました。

→身体介助の情報は事前に把握していたつもりでしたが、かなり難しい段差でした。

① 支援者には、養成研修(身体介助実習)の復習などで準備をして頂く。

② 車椅子利用者の方の依頼では、「車椅子介助に慣れている支援者」とマッチングすることにも気をつけたいと思います。

3) 予定時間をかなり超過しました (携帯手続き)

→複雑な手続きでは「予定時間を超えること」も織り込む必要がありますので、あとの時間に余裕をみて頂くことを、支援者・利用者双方に事前に確認します。

4) 必要なものや流れを事前に想定して準備しましたが、知識が十分にはない分野で、想定外のことも起きて戸惑いました。お店の方は丁寧に対応して下さいましたが、支援や判断が適切だったのか、不安になることもありました。

→落ち着いて、利用者の意向を確認しながら丁寧に支援して下さいました。今後「同種の支援依頼」で参考にできるように、準備や注意のポイントをまとめ、支援前の準備に役立てられたらと考えています。(※個人情報には配慮)

あすの会(ウェルとばた)

毎月 第2日曜日



会話Pさん、研修生さんが会話をつなぎます

今年度は感染対策のもとで交流会を毎月開催し、11月には久しぶりのバスハイクも行いました。参加の皆さんは、会話パートナーさんや、意思疎通支援の研修生さんを交えて、会話をゆっくりと楽しんでいます。今年のバスハイクには支援者2名の派遣を依頼しました。支援のおかげで、より楽しい時間になったと好評でした。

筍の会(小倉リハビリテーション病院)

奇数月 第2土曜日午後



昨年同様に感染対策のため、オンライン(ZOOM)にて開催しています。今年度は、毎回、持ち回りで会員の方が「わたしの好きなこと」について発表をしています。直接会えない日々が続いていますが、お互いをより深く知る機会となり、絆を深めています。

集団言語リハビリ交流教室
(北九州市立障害福祉センター)

毎週 木曜日午前



2022年度も時間短縮や人数制限等、十分に感染対策を取りながら開催しています。

11月には参加者の皆さんの地元の街、施設に出かける「社会参加体験事業」を実施しました。教室に参加が難しい方にも読んでいただけるよう「リハビリ通信」も引き続き毎月発行しています。

失語症サロン(ふくふくプラザ)

毎月 第3日曜日午前



サロンでは感染対策を行いながら、失語症のある人と支援者が一緒に、最近の出来事についての会話をしたり、景品(お菓子)をかけたゲームをして楽しい時間を過ごしています。2023年度は久しぶりに、皆さんとのお出かけイベントも計画中です。失語症者向け意思疎通支援者を目指す研修生も参加し、みなさんとの会話を楽しんでいます。

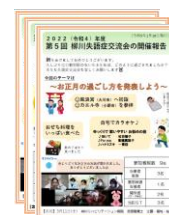
虹の会(福リハ友の会)

コロナ禍で自粛していた活動も今年度より再開することができ、3年ぶりにバスハイクも開催しました。バスハイクは宗像大社への参拝と、おいしい海鮮を食べに行きました。

当事業の研修生の方にも参加して頂き、会員さん同士の会話の架け橋となって頂きました。

柳川失語症交流会
(柳川リハビリテーション病院)

奇数月 第2土曜日午前



オンライン(ZOOM)を利用して2か月毎に開催しています。直接お会いできないのは残念ですが、画面越しにお一人ずつ「じっくり」とお話を聴く時間を過ごしています。

コロナ収束後は、また集合して、顔を合わせた形で開催したいと思います。

失語症

脳梗塞や頭部外傷
言語中枢の損傷が原因

失語症は文字通り、言葉を失う障害だ。読み書きはもちろ、自分の考えを話すことも、人の話を聞き取ることも難しい。原因は脳の言語中枢の損傷。脳梗塞や頭部の外傷などにより起こる。ある日突然、言葉を失った人たちがどう支えるか。障害者総合支援法に基づく支援が各自治体で始まっているが、十分な体制にはほど遠い。(梅本邦明)

11月、北九州市戸畑区の会議室であった失語症の当事者や家族の集まり「あすの会」の月例会。この日の「テーマトーク」のお題は「好きな味」。当事者約10人に支援の言語聴覚士たちが1人ずつ付き、ノートを広げて会話が始まった。同市門司区の当事者、勝田博文さん(72)の隣に座ったのは福岡県遠賀町の介護福祉士、西小路佐智子さん(43)。西小路さんはノートに「和食 洋食」「魚 肉」など選択肢を書き示したり、スマートフォン画面に料理の画像を表示したりしながら、一つ一つゆっくり質問を重ねる。勝田さんはノートの字を指さして「さ…か…」と答えたり、「うん…うん」と声に出してうなずいたり、「違う」と首

読む、書く、話す、聞く ある日突然、言葉が…



「あすの会」の月例会で、失語症のある勝田博文さん(左)から「好きな味」を聞き取る西小路佐智子さん

を振ったり。「魚は週に何回食べますか」「…いっぱいではない」「2回?」「首を振る」「1回?」「うん、うん」。勝田さんの脳裏にある考えを2人で探っていく。約20分後、支援者とまとめた「好きな味」を一人ずつ発

表した。勝田さんは「奥さんの…食事が…一番…です…和食が…好きです」。勝田さんは2014年、脳梗塞を患い失語症に。妻光子さん(67)は自営業を営み、通院など外出は基本的に博文さん1人。光子さんが病状や用事を記した紙やノートを携行し、受診では医師にその紙を示す。光子さんは「私が年老いて夫を支えられなくなったかどうかの心配です」。西小路さんは県の「意思疎通支援者」養成講座を受講中

うつや不安抱える人も

で、この日は研修の一環として参加した。「本人が本当に言いたいことを引き出すのが難しい」と話す。日本失語症協会(東京)によると、国内の当事者は推計30万~50万人。小倉リハビリテーション病院(同市小倉北区)診療部の大野重雄部長によると、失語症は一般に判断力や記憶力には問題ないと言われる一方、意図とは異なる言葉を発したり、書いたりする▽相手の言葉を復唱するのが

難しいなどの症状がある。リハビリ方法の一つがカードに描かれた絵の名前を言う練習だ。言語聴覚士の言葉を復唱したり、ヒントをもらって言い当てたりしながら言語機能の改善を目指す。並行して、身ぶり▽選択肢の提示▽単語を書く▽絵を描く…など意思疎通を補う手段を習得させる。大野部長は「失語症者は孤立感からうつ症状や強い不安を抱える人も多い。支援が不可欠だ」と語る。

「意思疎通支援者」仕組みはできたが

国は2018年度、失語症者の支援事業として、自治体や「意思疎通支援者」を養成して当事者の求めに応じ派遣するよう定めた。だが九州7県に取材すると、派遣実績は熊本県3件、福岡、鹿児島両県各1件にとどまる。コロナ禍で養成はさらに遅れがちで、制度の周知も大きな課題だ。意思疎通支援は障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業の一つ。原則「支援者」養成は都道府県、派遣は市区町村が担う。養成は国の定める課程(40時間)に基づき症状や意思疎通の方法などを学ぶ。修了者は都道府県に登録される。当事者側は買い物や公共施設などを利用する際に支援者の派遣を依頼できる。日本言語聴覚士協会による

九州の「意思疎通支援者」の登録者数と派遣実績

県	登録者	派遣
福岡	33人(2021年度末)	1件(21年度末)
佐賀	35人(21年度末)	0件(22年11月)
熊本	16人(20年度末)	3件(21年度末)
鹿児島	11人(22年4月)	1件(22年9月)

※派遣は熊本県は八代市、他は各県が実施

と、全国で登録されている支援者は9611人(昨年度)。厚生労働省によると、派遣事業を実施しているのは6府県と34市区町村(20年度だった。九州では長崎、大分、宮崎3県は支援者の登録がなかった。長崎、大分両県は支援の

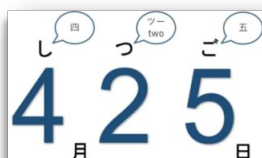
需要を失語症当事者に調査中で、宮崎県は「コロナ対策で養成が遅れた」。佐賀県は今年2月に派遣を始め、今のところ利用実績はゼロ。同県は「周知不足が原因」とみて医療機関を通じて浸透を図る。福岡県は昨年度、派遣を始めた。事業を受託する県言語聴覚士会は「支援者は初対面の当事者の状態を見て、その場で適切な意思疎通の手段を判断しなければならぬ。国の養成課程を修了しただけでは対応が難しい」として実践形式の研修を実施している。支援者の多くは言語聴覚士や介護福祉士など本業を抱え、派遣依頼への応答が難しい場合もある。同会は「支援者を増やすことが急務だ」と話した。

登録した支援者は増えているけれど、派遣はこれから

※HP掲載許諾済

実践的な研修、安心な派遣を工夫し、「使いたい」派遣事業を一步一步めざします

2023年



もうすぐ失語症の日！

p6

福岡県でも **1週間前にイベント** を企画しています
県内の失語症の方々、ご家族、支援者と交流しましょう

2023年4月16日(日)午前10時50分～11時40分

「失語症サロン（ふくふくプラザ/福岡市）」発の
Zoom（ズーム＝オンライン会合）に参加しませんか？

（当日の失語症サロン会場はふくふくプラザ402会議室です）

- ①まずインターネット環境・Wi-Fi環境と受信機器（スマホ・パソコン）を準備
- ②Zoomをインストールします
- ③当日の**10時半以降** Zoomの「ミーティングに参加する」をタップまたはクリック
- ④ミーティングID: **843 9381 5706** パスコード: **099644** を入力
- ⑤画面に他の参加者が映ります
- ⑥**10時50分～開始**です、お待ち下さい



★データ通信量
＝費用
にご注意下さい

プログラム

10時半～ 入室できます
お待ちください

病院受診、携帯修理
役所手続きなど

10時50分～ 開会 「失語症者向け支援者派遣事業」
ー利用者登録のご案内、派遣例のご紹介ー

11時00分～ 参加者のご紹介（団体・個人）

10分～ つなごう！リレートーク（失語症の方ご紹介）
今年は **糸島市の赤澤さんご夫妻** の
「思い出と今の夢」
お楽しみに！

20分～ みんなでトーク

11時40分 全国イベントのご紹介
45分～ イベント終了



とにかく
体験！

前回2022年4月17日の
Zoomイベントの様子
県内各地（北九州、
福岡市、柳川など）から
参加がありました

